国語科単元構想シート　単元名「自分の選んだすきな場面を紹介カードで図書室から全校に紹介しよう」　全８時間
教材名「まいごのかぎ　(光村図書　3年上)」

単元目標 (単元で育成を目指す資質・能力) ◎…指導の重点	○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。［知識及び技能］((１)オ) ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。［思考力、判断力、表現力等］(Ｃ（１）エ) ○言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((１)オ)	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（Ｃ(１)エ）	進んで読書をし、登場人物の様子を場面の移り変わりと結び付けながら想像し、学習課題に沿って自分が選んだすきな場面を紹介カードで表現しようとしている。

言語活動	自ら進んで言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿
自分が選んだ「不思議な出来事」が起こる本のすきな場面を見つけて、「すきな場面紹介カード」にまとめて紹介する。	・自分がすきな場面を選んだ理由について、教科書のページをめくりながら考え、着目した叙述をはっきりさせるために理由となるところに線を引いている。 ・自分がすきな場面を選んだ理由について、教科書のページをめくりながら、選んだ叙述が相手に分かるように叙述を指さしながら相手に伝えている。

単元の流れ	「読み解く力」の視点を踏まえた、児童の学ぶ姿			指導の手立て ★児童が主体となるための重点的な手立て
① 学習の見通しをもつ。 教材文の範読を聞き、すきな場面を中心に初発の感想を書く。 ② 初発の感想から学習計画を立てる。 自分の課題に合わせて読み、「まいごのかぎ」の設定やあらすじについて、確認する。 ③ 「まいごのかぎ」のすきな場面を選び、全文シートに自分がすきな場面が分かるようにする。 ④ 自分が選んだ「まいごのかぎ」のすきな場面を全文シートを使いながら交流する。 ★ ②～④で必要に応じて並行読書材を読み、すきな場面を見つける時間を取る。 ⑤ すきな場面を選んだ理由を紹介カードに書き、教室内の友達と自由に交流する。 ⑥ 自分が選んだ本のすきな場面を選ぶ。 ⑦ 自分が選んだ本についてすきな場面とその理由を紹介カードにまとめる。 ⑧ 紹介カードを読み合い、すきな場面とその理由を交流する。 図書室に掲示し、全校に向けて紹介する。	A 主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	必要な情報を確かに取り出す【①発見・蓄積】 教材文や並行読書材を読み、自分がすきだと思う場面や、不思議だと思う場面を見つけている。 友達との交流を通して自分がすきだと思う場面や、不思議だと思う場面を新たに見つけている。 情報を比較し、関連付けて整理する【②分析・整理】 教材文や並行読書材を読んで見つけた自分のすきな場面の理由について、場面の移り変わりと結び付けている。 すきな場面の登場人物の気持ちの変化について、根拠を明確にして友達と交流することで、場面の魅力を改めて感じたり、新しいよさに気付いたりしている。 自分なりに解決し、知識を再構築する【③再構築】 教材文や並行読書材の中から自分のすきな場面を決め、その理由について場面の移り変わりと結び付けて、カードにまとめている。 友達との交流を通して、好きな場面とその理由を明確にしている。	B 主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	★単元の導入で、言語活動のモデルを示すとともに、学習活動のゴールを伝えることで、目的意識や相手意識を明確にする。 ・指導者による読み聞かせや、朝読書の時間を活用し、並行読書の本に触れる機会を設ける。また、児童の読書履歴を一覧にした表を掲示し、児童全員の読書履歴が分かるようにする。 ・学習計画を掲示し、児童が必要に応じて学習の見通しをもったり振り返ったりすることができるようにする。 ★すきな場面に付箋を貼り、自分が心に残った場面について蓄積する。